

一羽の鳩がかりました。非常に喉が渴いて居た時に、看板の畫にある盃に水の入つてゐるのを見て、繪だとは知らないで、いきなり、夫を目かけて、烈しく飛んで行つたので、イヤといふ程板へ、身体をぶつ付けて其爲に、羽を挫いて、地面に落ちこちて、とう／＼通りかゝりの人に捕まりましたとさ。

思慮ニ過ギテ狂熱ニ走ツテハ不可ナイ

慈悲深い天子

アウストリアの天子で、ヨセフ第二世と申しました方は、大層お慈悲深い、親切な方で居らした相です。

ある日のこと、此天子様は、ウ井ーンの市街を、普通の紳士の様な姿をして、御散歩なすつて居

ました所が、年頃十二許の可愛い男の子が、オチ／＼と、何か、言ひたさうに近づいてきました。夫と見て、紳士は

「お前、何か欲しいものでもあるのかい」と咄しかけたが、其聲が、いかにも優しくつて、様子が、どこまでも親切相なので、子供は、とう／＼思ひ切つて言ひ出しました。

「私は、御願があります、貴下は、屹度聞いて下さるでしょうね」紳士は

「そりや、聞いてやらうよ、けどもお前何が、欲しいの？ お前、乞食じやなからう、物の言ひ方や、お前の様子で分るが……」

「私は、乞食じやありません」といつて、子供は、何を思ひ出したか、急に悲しくなつてきて、兩方の眼から、大きな涙を、ぼろ

ッ、ぼろッとかげした。

「お父つあんは、もと、軍隊で、強い士官だつた

か、病氣になつて、仕方なしに、

役を引いたんだが、天子様から、

恩給を戴いて、夫で、皆が、食

つて行て居つたのです。けども、

とうく亡くなつたもんだか

ら、もう、皆が、食つて行かれ

ない様な、貧乏になつちまつた

んです」

「フーン、そりや氣の毒だな：

…おツ母さんは居るの？

「エ、まだ他に、私の弟も二人居りますよ、夫に、

おツ母さんは、一週間も、病氣で、起きられない

もんだから、二人が出て貰ひに行く間に、一人は

残つて撫つて居るのです。

こういつて、子供は、眼から落ちて来る涙を、無

理に出すまいとして居たが、ど

うしても、流れて来てとまり相

にもない。

紳士は どうにも可愛相に思つ

て、

「い、い、い、そう泣かなくつ

ても宜いよ、今に私が、どうに

かしてやらう、どうだ、近所に

お醫者さんは居るかね？」

「エ、居ますとも、二人居ま

す、ちぎ、私の所の傍に」

「ア、そー、夫ではお前今からすぐ行つて、其お

醫者を呼んでくることになさい、夫から、これは



お金だよ、イヤ、お医者さんのは、別に上げる、これで、何か、買って、家へ持つて行くのだ」
 餘りの、嬉しさに吃驚して、子供は思はず、紳士の顔を見上げて

「まー、ありがたいこと！これだけのお金があればお母さんの病氣も助かるし、私らも食べて行けます」

「さ、構はないから、早く行って、お医者を迎へておいで」

子供は大喜びで、醫者の所へ駆け出しました。紳士は子供から、其家を聞きましたから、すぐ其足で、そつちの方へ廻りましたが、やがて、子供の住家へとつきました。一目見た許りで、いかに、其難澁な有様が分ります、天子様は、委細かまはず、ズーつと、室の中へ這入つて行きますと、寢

て居るお母さんと、子供らは、吃驚して、不思議そうに眺めて居ます、もつとも、このお客は、自分たちの天子様とは知る筈がありません。

天子様は、丁寧に、お辭儀して、

「奥さん、私は医者ですがね、御近所の方から、あなたが悪いと知らしてきましたから、私に出来るだけの療治を致して上げたいと思ひまして、夫で、参りましたのです」

「ア、左様でございますか、どうも態々、御親切様に……」といひかけて、少し口ごもつて、

「けども、先生、ごらんの通りの有様ですから、とてもお禮の仕様もございません次第で……」

「イヤ、其事なら御心配に及びません、あなたが全治なりさへすれば、夫で宜しいので」

といひながら、ずつと寢床の傍まで近よつて、い

ちく／＼容體の事なぞ尋ねて、夫から、何か紙片へ書きつけて夫を枕元に置いて

「エート、こゝに處方箋を置きますよ、何れ此大伺ふ時は、大分よくなつて居ましよう」

といつて、行つて仕舞ひました。

此の客が出るで行き違ひに這入つて来たのは、前の子供とお醫者さんです。這入るが早いから、子供は

「おツ母さん、おツ母さん、まー、親切な伯父さんじやないか、そら、こんなに澤山なお金を下さつた方があるよ、」

といつて、兩手で、おツ母さんの手の上に、前程貰つた金を載せながら、

「だからさ、おツ母さん、もう泣くのは、およしよ、これ丈けあれば、お醫者さんもよぶことが出

来るし又おツ母さんの好きなものは、何でも買へるよ、其中にはおツ母さんも、よくなるからね」と、無性に嬉しがりながら、一人で喋舌つて居る。

おツ母さんは、不思議でならない。

「お醫者さんなら、ツイ、今の前來て下さつたよそらでらん、こゝに處方箋があるだらう、」

といつて、見せる、子供は、何の氣もなく、夫の手に取つたがズーツと讀んで仕舞ふか、仕舞はないうちに、思はず知らず、嬉しさと仰天との叫び聲が出た。

「オー、おツ母さん、處方箋の中でも、一番宜い處方箋だよ、何せつておツ母さん、恩給の命書だ、おツ母さんの、然も天子様御自身でお記しになつた、まー、聞いてごらん、この通りだもの、

一筆申し上げ候、只今途中にてお前さまの息子に出遭ひ候處、嘗て勇敢なりし我が士官の一家族が、頼るべき途なくして、非常なる貧困と病氣とに苦み居り候事を承知致し候。國內の事、一々承知致すは、とても身に取つて六ヶ敷き事故、今迄全く知らずに打過ごし候ひしが、既に承知致したる上は、此儘に捨て置くこと出来申さず、夫故、早速恩給帳簿に、夫人の名を記入し、爾今年々二千圓づゝ支給致すべく候

ヨゼフ二世、

夫から、お母さんと子供らは、天子様から、特別の御保護を頂く様になりましたが、子供らは、父の勇氣とこの母の優しい性質とを受けて、何れも、皆立派な軍人になりましたとの事です。

懸賞なぞく
さあ 皆さん、懸賞のなぞくを出しますから
あてゝごらん下さい。

- 一、秋の虫とかけて
- 二、夏休みのお仕舞とかけて

注意!!

● 答は端書に限ること。 ● 答は家内總が、りで考へて宜しきこと ● 答のべ切は本月十五日限り ● 答の披露は次號。

賞品 一等 少年文學 二冊
同 二等 全上 一冊
答は一切左の處へあてゝ送ること

東京市下谷區竹町一番地東方

ゆき子